

42 ページ 2. 1 の見出し

誤：エンティティ，属性，ロール

正：エンティティ，属性

61 ページ E-R 図 孫階層の左から 2 番目のエンティティ名

誤：国内営業社員

正：海外営業社員

64 ページの下 E-R 図 “社員” エンティティ内の社員番号

誤：社員番号

正：社員番号

65 ページの下 E-R 図 “社員” エンティティ内の社員番号

誤：社員番号

正：社員番号

83 ページの下から 4 行目左図 属性名 “社員”

誤：属性 “商品コード” の 1 行目には {A301, D684, K028, J552} の

正：属性 “商品コード” の 1 行目には {A301, D684, K028, F552} の

85 ページの下左図 属性名 “社員”

誤：社員

正：社員番号

87 ページ 最上段の図

下図に差し替えてください。



93 ページ 上から 3 行目

誤：②対社員番号 → …

正：②社員番号 → …

110 ページ 上段の左のテーブル名

誤：社員

正：セット商品

112 ページ 最下の商品テーブル

誤：商品 (商品番号, 商品名, 販売単価, 売上順位, 重量, 大きさ, 商品分類コード, …)

正：商品 (商品番号, 商品名, 販売単価, 売上順位, 重量, 大きさ, 商品分類コード, …)

137 ページ 上にある“社員”表の 1 行目の 4001 木村の部門コード

誤：101

正：100

159 ページ (3)の見出し

誤：ON を使った全外部結合
正：ON を使わない全外部結合

167 ページ “社員” テーブルの下から 2 行目の 4002 大井さんの “成績” の値

誤：60
正：70

173 ページ (2) カーソルの FETCH 4 行目

誤：オープン済みのカーソル “1000 番台の社員” を FETCHN する…
正：オープン済みのカーソル “1000 番台の社員” を FETCH する…

179 ページ 著者から一言

誤：一貫性と耐久性は、具体例を書くのが難しく、語感で覚えるしかないと思います。“大丈夫です” といった語感です。したがって、原子性と隔離性をしっかり覚えてください。

正：一貫性と耐久性は、具体例を書くのが難しく、午後問題ではほぼ問われません（午前問題で問われることはあります）。原子性と隔離性の概念は、午前・午後問題の両方で問われますので、しっかり覚えてください。

183 ページ (4) ファントムリード (Phantom Read) の 1 行目

誤：ノンリピータブルリードは、…
正：ファントムリードは、…

185 ページ 隔離性水準の表から下へ 1 行目

誤：例えば、Read Committed は、ダーティリードを許容しますが、ノンリピータブルリードとファントムリードを許容しません。

正：例えば、Read Committed は、ダーティリードを許容しませんが、ノンリピータブルリードとファントムリードを許容します。

211 ページ 扉の紹介文

下記の文を追加します。

<p>第 6 章 3. 午後 I 問題の演習 ～ 4. 午後 II 問題の演習 (p. 229 ～ 404) にて、掲載されている解答は、著者が独自に問題を解いて示したものです。したがって、あわせて掲載しております試験センターによる解答例と、しばしば異なることがあります。記述式問題の解答には絶対的な正解というものはないために、このような結果となることがありますので、ご容赦くださいますようお願いいたします。</p>
--

255 ページ 設問 1(1) ②の解説

誤：②有効期間 … この有効期間内しかクーポン券は使えないので、有効期間は候補キーを構成する属性です。ただし、図 3 のテーブル構造に倣って有効期間を {開始年月日, 終了年月日} に読み替えます。

正：②有効期間 … 043 行目にある“有効期間 (開始年月日～終了年月日) : 一つの有効期間”を、“有効期間 (開始年月日～終了年月日) : 一つの候補キーに対し、有効期間は一つに特定される”と補って解釈し、{開始年月日, 終了年月日} は非キー属性であると判断します。

255 ページ 設問 1(1) 最終文

誤：上記の検討より、候補キーは {クーポン番号, 商品番号, 開始年月日, 終了年月日, 店舗番号, 曜日, 時間帯番号} になります。これ以外の候補キーはありません。

正：上記の検討より、候補キーは {クーポン番号, 商品番号, 店舗番号, 曜日, 時間帯番号} になります。これ以外の候補キーはありません。

なお、上記②において解説した有効期間について、<一つの候補キーに対し、有効期間は一つに特定される>と解釈せず、<ある特定の有効期間>であると解釈した場合を考えてみます。この場合、さらに、下記のような“クーポン利用条件”テーブルの例を想定します。

クーポン利用条件

クーポン番号	商品番号	店舗番号	開始年月日	終了年月日	曜日	…
12345678	生ビール	荻窪店	2012-07-01	2012-07-10	月	…
12345678	生ビール	田町店	2012-07-01	2012-07-10	金	…
12345678	生ビール	高輪店	2012-07-11	2012-07-21	火	…

注：商品番号・店舗番号は、わかりやすさを狙って、名称にしています。

B社の販売部長は、上表の1行目と2行目の“夏だ！生ビール祭り”クーポン券の利用状況を調査し、当該クーポンが好評であると判断しました。そこで、期間と店舗を代えた同様のクーポン券を、上表の3行目の利用条件で配布することにしました。つまり、上表の1～3行目は、同一販売促進企画に基づいたクーポン利用条件です。このように、クーポン番号が販売促進企画を特定する識別番号である場合、クーポン番号 → {開始年月日, 終了年月日} の関数従属性は存在しません。したがって、この場合の“クーポン利用条件”テーブルの候補キーは {クーポン番号, 商品番号, 開始年月日, 終了年月日, 店舗番号, 曜日, 時間帯番号} になります。

クーポン番号が何ごとにつけられるかは、クーポン番号を付番している人(ここでは、B社の販売部長)の考え方次第で変わります(=試験問題においては、問題の設定状況(=出題者の意図)によって異なります)。したがって、受験者は、問題の設定状況を、慎重に吟味し、候補キーを特定しなければなりません。

466 ページ 右上の“当月商品出荷実績”テーブルの列名

誤：

商品コード	商品名	在庫数
-------	-----	-----

正：

商品コード	商品出荷日	出荷数
-------	-------	-----

467 ページ 上から 8 行目のテーブル名

誤：商品別出荷明細

正：商品別出荷実績

512 ページ 解説 T1 の 2 行目

誤：他トランザクションをロールフォワード…

正：他のトランザクションをロールフォワード…

528 ページ 問題 3 の見出し

誤：B+木インデックスとビットマップイン

正：B+木インデックスとビットマップインデックス

付録 CD-ROM 内の過去問題及び解答・解説の PDF

平成 25 年度 午後Ⅱ問 1 解説文 33 ページ 下から 1～13 行目

33 ページの<問題文〔部品購買業務の分析結果〕4. (2)②の 1 文目 (070～071 行目) と (3) ②の 1 文目 (080 行目) は、下記のとおりです。>から下に最後の行まで、すべて削除し、下記の解説に差し替えてください。

問題文〔部品購買業務の分析結果〕4. (2)②の 1 文目 (069～071 行目) は、下記のとおりです。

4. 発注方式
 (2) 都度発注方式
 ② ▲あらかじめ部品ごとに定められた複数の部品仕入先候補 (以下、長納期主要部品仕入先候補という) に対して見積りを依頼し、★見積結果の価格、納期及び品質ランクを踏まえて、1 社を選定する。

上記▲の下線部の例として、“部品 A の複数の仕入先候補である X 社、Y 社、Z 社に見積りを依頼する” 場合を想定すると、“見積依頼” テーブル，“見積依頼仕入先明細” テーブル，“見積明細” テーブルは、下記のようになります (番号・コード・区分は、わかりやすさを狙って名称に置き換えています)。

“見積依頼” テーブル

見積依頼番号	...	部品番号	定量発注都度発注区分	...
1001	...	部品 A	都度発注	...

“見積依頼仕入先明細” テーブル

見積依頼番号	見積依頼明細番号	仕入先コード	選定結果	...
1001	1	X 社	—	...
1001	2	Y 社	—	...
1001	3	Z 社	—	...

◆1

“見積明細” テーブル

見積依頼番号	見積依頼明細番号	...	単価	...	定量発注都度発注区分	...
1001	1	...	180	...	都度発注	...
1001	2	...	150	...	都度発注	...
1001	3	...	160	...	都度発注	...

◇1

◆2

◇2

上記★の下線部にしたがって、今回の見積では Y 社 (◆1) だけを選定して発注したとすれば、“発注” テーブルのインスタンスは、下記のようになります。

“発注” テーブル

発注番号	...	部品番号	見積依頼番号	見積依頼明細番号	...
12345	...	部品 A	1001	2	...

さらに、“見積依頼仕入先明細” テーブルの選定結果は、下記のように変更されます。

“見積依頼仕入先明細” テーブル

見積依頼番号	見積依頼明細番号	仕入先コード	選定結果	...
1001	1	X 社	発注しない	...
1001	2	Y 社	発注する	...
1001	3	Z 社	発注しない	...

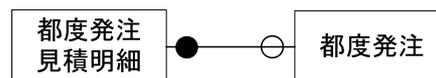
上記◆2 と■より、“都度発注見積明細” エンティティのインスタンスが 1 つ決まると、“都度発注” のインスタンスは 1 つに特定され、逆に“都度発注” エンティティのインスタンスが 1 つ決まると、“都度発注見積明細” エンティティのインスタンスは 1 つに特定されます。

したがって、右図のように“都度発注見積明細” エンティティと“都度発注” エンティティの間に、1 対 1 のリレーションシップを認識します。



なお、本問では問われていませんが、リレーションシップの●と○を考えてみます。上記の“見積明細” テーブルの◇1 と◇2 には、対応する“発注” テーブルのインスタンスがないので、“都度発注見積明細” エンティティから見た“都度発注” エンティティのリレーションシップは○になります。

また、■のインスタンスには◆2 のインスタンスが必ず対応するので、“都度発注” エンティティから見た“都度発注見積明細” エンティティのリレーションシップは●になります。



問題文〔部品購買業務の分析結果〕4. (3)②の 1 文目 (078～080 行目) は、下記のとおりです。

4. 発注方式
 (3) 定量発注方式
 ② ▼あらかじめ部品ごとに定められた複数の部品仕入先候補（以下、補充部品仕入先候補という）に、一定期間（数か月以上）の発注数量を前提に見積りを依頼し、●見積結果の価格及び優先順位を踏まえて、1 社又は複数社を選定する。

上記▼の下線部の例として“部品 B の複数の仕入先候補である Q 社、W 社、V 社に見積を依頼する” 場合を想定すると、“見積依頼” テーブル、“見積依頼仕入先明細” テーブル、“見積明細” テーブルのインスタンスは、下記のようになります（番号・コード・区分

は、わかりやすさを狙って名称に置き換えています)。

“見積依頼” テーブル

見積依頼番号	...	部品番号	定量発注都度発注区分	...
2002	...	部品 B	定量発注	...

“見積依頼仕入先明細” テーブル

見積依頼番号	見積依頼明細番号	仕入先コード	選定結果	...
2002	1	Q 社	—	...
2002	2	W 社	—	...
2002	3	V 社	—	...

◆1

◆2

“見積明細” テーブル

見積依頼番号	見積依頼明細番号	...	単価	...	定量発注都度発注区分	...
2002	1	...	310	...	定量発注	...
2002	2	...	320	...	定量発注	...
2002	3	...	330	...	定量発注	...

◆1

◆2

上記●の下線部にしたがって、今回の見積では Q 社 (◆1) と W 社 (◆2) の 2 社を選定して発注したとすれば、“発注” テーブルのインスタンスは、下記のようにになります。

“発注” テーブル

発注番号	...	部品番号	見積依頼番号	見積依頼明細番号	...
12345	...	部品 B	2002	1	...
12346	...	部品 B	2002	2	...

■1

■2

さらに、“見積依頼仕入先明細” テーブルの選定結果は、下記のように変更されます。

“見積依頼仕入先明細” テーブル

見積依頼番号	見積依頼明細番号	仕入先コード	選定結果	...
2002	1	Q 社	発注する	...
2002	2	W 社	発注する	...
2002	3	V 社	発注しない	...

上記◆1◆2 と ■1■2 より、“定量発注見積明細” エンティティのインスタンスが 1 つ決まると、“定量発注” のインスタンスは 1 つに特定されるように見えますが、そうではありません。問題文〔部品購買業務の分析結果〕5. (3)①～④ (168～176 行目)、下記のとおりです。

4. 業務プロセス

(3) 定量発注方式の業務プロセス

① 見積依頼

- ・ 数か月～1 年ごとに、あらかじめ部品ごとに補充部品仕入先候補とし

て登録してある全仕入先に対して、同時に見積りを依頼する。

②仕入先選定
・見積りを依頼した仕入先から見積りを入手し、仕入先を選定する。

③部品在庫確認
・毎日の業務終了時に、部品ごとの在庫数量を確認する。

④発注
・在庫数量が発注点在庫数量を下回っている部品について、仕入先に発注する。

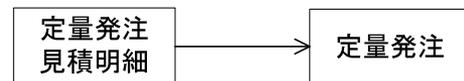
上記の下線部より、1つの見積りから、複数の発注をすることがあります（毎月1回程度、在庫数量が発注点在庫数量を下回る部品の場合、1つの見積りに対し、6～12回程度の発注がなされます）。例えば、上記◆1の見積明細を使って2回目の発注をした場合、“発注”テーブルには下記の■3が追加されます。

“発注” テーブル

発注番号	…	部品番号	見積依頼番号	見積依頼明細番号	…	
12345	…	部品 B	2002	1	…	■1
12346	…	部品 B	2002	2	…	■2
12488	…	部品 B	2002	1	…	■3

上記◆1と■1■3より、“定量発注見積明細”エンティティのインスタンスが1つ決まっても、“定量発注”のインスタンスは1つに特定されません（＝複数あります）。逆に“定量発注”エンティティのインスタンスが1つ決まると、“定量発注見積明細”のインスタンスは1つに特定されます。

したがって、右図のように“定量発注見積明細”エンティティと“定量発注”エンティティの間に、1対多のリレーションシップを認識します。



平成 27 年度 午後 I 問 1 解説文 29 ページ 空欄イの下から 2 行目

誤：実在庫数列の値を，出荷した数量を加算した値に更新し、
正：実在庫数列の値を，出荷した数量を減算した値に更新し、

平成 27 年度 午後 I 問 2 問題文 10 ページ 21 行目

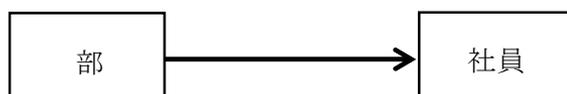
誤：一つの営業部は、複数の顧客グループを相当する。
正：一つの営業部は、複数の顧客グループを担当する。

平成 27 年度 午後 I 問 2 問題文 10 ページ 23 行目

誤：一人の営業部社点は、
正：一人の営業部社員は、

平成 27 年度 午後 I 問 2 解説 39 ページ 上の E-R 図

下記のものに差し替えてください。



平成 27 年度 午後 II 問 2 解説 58 ページ 1～2 行目

誤：関係“エリア”の主キーを参照する外部キーとして，関係“従業員”に，属性“従業員番号”が新たに必要になります。
正：関係“従業員”の主キーを参照する外部キーとして，関係“エリア”に，属性“従業員番号”が新たに必要になります。

平成 27 年度 午後Ⅱ問 2 解説 66 ページ 下から 2～3 行目

誤：“部品保管エリア” エンティティの各属性値と，“部品保管エリア” エンティティの各属性値は，人が決定して設定しなければなりません。

正：“部品保管エリア” エンティティの各属性値と，“エリア” エンティティの各属性値は，人が決定して設定しなければなりません。

以上